

KYT (危険予知トレーニング)

危険予知トレーニングを、頭文字である危険の「K」、予知の「Y」、トレーニングの「T」としてKYTと呼びます。

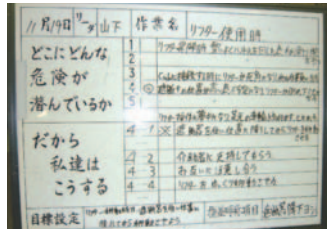
KYTは、作業に従事する作業員が数名のチームとなり、事故や災害を未然に防ぐことを目的に、その作業に潜む危険を予想し、指摘しあう訓練のことです。鉄道部門では始業時などにチームごとにKYTを行い、事故防止に努めています。

4ラウンド法

第1R (現状把握)	▶	どんな危険が、ひそんでいるか
第2R (本質追求)	▶	これが、危険のポイントだ
第3R (対策樹立)	▶	あなたなら、どうする
第4R (目標設定)	▶	私たちは、こうする



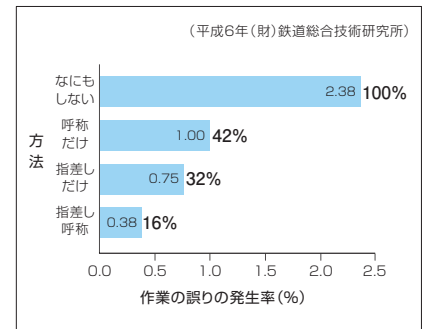
指差し呼称



KYTボード

トレーニングの手順として「4ラウンド法」を採用しており、チームが4つのプロセスを通して決定した「危険のポイント」や「チーム行動目標」をチーム全員で「指差し唱和(呼称)」しています。

指差し呼称の効果検定実験結果



「指差し呼称」とは作業の各要所で一人ひとりが、確認すべき作業動作や物に対して、腕を伸ばして指差し、しっかりした声を出し呼称し、安全性・正確性を確認する動作です。

平成6年、(財)鉄道総合研究所が行った指差し呼称の効果検定実験結果によると、「何もしない場合」に比べて「指差し呼称する場合」には作業の誤りの発生率が6分の1以下になるということが示されています。

技術の継承

保線部門

軌道を保守する技術力を維持するために、平成16年より課内に技術継承プログラム委員会を立ち上げ、策定した年間計画に基づいて実務研修(年2回)や机上研修(年4回)を実施しています。

実務研修では、経験豊富な社員が中心となって若手社員に訓練を行っています。保線作業の要領や防災時の対応などの技術継承に努めています。

机上研修では、軌道に関するあらゆるテーマを取り上げ、研究発表や議論を通して、知識の習熟に努めています。

Message

保線課では、お客さまの安全輸送を第一に考え、乗り心地向上のために保線課員が一丸となり、日夜線路の保守点検業務を遂行し運転保安に努めています。そこで課題となるのが若年社員に対する技術の継承です。保線課では技術継承プログラム委員会を立ち上げ、年間計画を緻密に立案し、若年社員に年間を通して安全面も含め教育を行っております。

工務部 保線課
京都保線係 三条班
安田 六月



電気部門

電気部門では、電気技術に対する理解を深めるための教習書や、安全点検の確実な実行と一定レベルの技術を確認するための標準作業手順表を活用しています。

また、作業員の安全確保や障害発生時の迅速な復旧を目指すため、主に若年者を対象に「障害復旧訓練」を実施しています。

毎年開催される「業務研究発表会」では、さまざまな課題に対する対策や改善を検討し議論することで、技術力の向上に努めています。

Message

電気部門では、基本的にOJTによる技術継承を行い、それを補うものとしてベテラン社員の知識やノウハウをマニュアルなどに体系化し共有・活用しています。なお、直感的に判断できる眼、長年の経験からくる勘に加え、信念や使命感といった言葉で表現しにくいものは継承が難しいですが、コミュニケーションを図り伝えていく努力を行っています。

電気部 電気課
京都直通係
石倉 浩



車両部門

車両部門では、作業手順書などを作成して技能・技術力の保持に努めていますが、ベテラン社員の大量定年退職による技能の断絶を避けるために、技能の継承に重点をおいた勉強会を年間計画(年6回以上)に基づき実施しています。

また、新任監督者を対象に指導者としての研修会を開催し、技能継承が「安全・確実」に行えるようにしています。さらに、過去の重大事故の教訓を継承するために、重大事故年表を作成し安全マネジメント教育などで周知徹底しています。

Message

作業手順マニュアルの充実はもちろんのことですが、標準作業以外へも臨機応変に対応できる人材の育成、そして、日々の作業のなかでも考える力を養うための研鑽を行っています。また、勘違い、ミスすることを前提に、重要な点はほかの社員への確認をいとわない風土づくりとダブルチェック体制で仕事を遂行し、毎日が「伝える」環境であるように努めています。

車両部 車両課
検査係
武田 清

